

御所透かしの用具

京都御苑の広大な芝生の中には、立派な松の木が立ち並んでいます。松の高い枝を剪定するために、御苑の庭師たちは最大 4～5m まで伸びる竹の棒の先に鎌や鋸刀をとりつけた特殊な道具を使っています。このような剪定技術は京都御苑だけで見られる特別なものです。

① 下から突き上げて枝に傷を付ける

② 引き寄せて枝を折る

カマ

長柄カマは、京都でしか見られないの用具です。カマの内と外にががあり下からき上げて枝に傷をつけ、きせて枝を折るものです。

長柄ノコギリ

ノコギリ

はノコギリでします。ノコギリの種類もさまざまですが、剪定用のノコギリは、先が細くいすき間にも使えるようになっています。

「御所透かしは」は樹木本来の自然樹形がイメージされた自然風の仕立て方によるものです。手入れの前後で、その景観に著しい変化があってはならないこととされ、根元に剪定した枝や葉が落ちているのを見て、初めて手入れに気づくくらいの細心さが求められるとされています。